

8－1 技術・家庭（技術分野）

（１）第１学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

１年生の学習状況について、以下のような特徴が見られる。

- ・ 授業や作業への取組は意欲的であり、互いに教え合う場面をよく見られる。
- ・ 小学校での経験や生活経験の違いから、技術的な事柄や作業に関する知識・技能について、個人差がある。

イ 学力の状況

１年生の技術の学力について、以下のような傾向が見られる。

- ・ 実技を含め、学習には積極的であり、取り組みは前向きである。
- ・ 学習意欲の差となる原因の一つとして、家庭生活における経験の違いがある。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 実習を通じて自信を付け、意欲的にものごとに取り組む姿勢を伸ばす。
- ・ 授業で習得した事柄を日常生活でも活用できるようにする。
- ・ 生活に必要な基礎的な知識を確実に身に付ける。

イ 指導面（教師の課題）

- ・ 授業評価アンケートの「先生の説明は分かりやすいですか。」という設問に対する回答について、「あてはまる」は７４％、「ややあてはまる」は２３％であり、合計は９７％であった。「あまりあてはまらない」は３％、「あてはまらない」は０％と回答した生徒もより授業に楽しく取り組めるように、また、より生活に役立つ内容を充実して学べるようにわかりやすい授業になるよう工夫をする。
 - ・ 基礎的な知識の習得についての細やかな指導と工夫をする。
 - ・ 実技では、教材教具や授業計画を工夫する。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・ 班の活動を取り入れる。
- ・ 学習カードの振り返りを活用する。
- ・ 安全指導時に場面を言語化することを繰り返す。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ 技術科室、コンピュータ室の環境を整備し、安全に集中して作業できるようにする。
- ・ 授業開始時に本授業の目標を提示し、流れと注意点を提示する。
- ・ ＩＣＴ機器を活用することにより、分かりやすい説明を行う。

ウ 家庭学習の定着

- ・ 技術で習得した事柄を日常生活で活用できるように指導する。
- ・ 長期休業中の家庭学習のポイントを具体的に提示する。

エ その他（ＩＣＴ機器の活用等を含む）

- ・ 教師用ＰＣ画面の一斉送信を用いて、分かりやすい説明を行う。
- ・ より円滑な授業展開のため、書画カメラを活用する。
- ・ 基礎技能の習得において、自分自身の作業進度や難易度に合った技能の習得ができるようにする。

（２）第２学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

２年生の学習状況について、以下のような特徴が見られる。

- ・ 授業や作業への取り組みが意欲的である生徒が多く、エネルギー変換に関する技術についての学習はこれまでの学習や経験を生かして、理解しようとよく努力している。
- ・ 生活経験の違いから、技術的な事柄や作業に関する技能について、身に付いている力に違いがある。
- ・ 日常生活での経験に、質・量、共に偏りがある。

イ 学力の状況

２年生の技術の学力について、以下のような傾向が見られる。

- ・ 実技を含めて学習には積極的であり、取り組みは前向きである。
- ・ 学習意欲の差となる原因の一つとして、家電製品の扱いなど家庭生活での経験の違いが挙げられる。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 実習を通じて自信を付け、意欲的にものごとに取り組む姿勢を伸ばす。
- ・ 電気機器の整備と点検など実技で習得した事柄を日常生活でも活用できるようにする。
- ・ 生活に必要な基礎的な知識を身に付ける。

イ 指導面（教師の課題）

- ・ 基礎的な知識の習得について細やかな指導と工夫をする。
- ・ 実技では、教材教具や授業計画を工夫する。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・ 班の活動を取り入れる。
- ・ 学習カードの振り返りを活用する。
- ・ 安全指導時に場面を言語化することを繰り返す。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ 授業開始時に本授業の目標を提示し、流れと注意点を提示する。
- ・ ICT機器を活用することにより、分かりやすい説明を行う。

ウ 家庭学習の定着

- ・ 技術で習得した事柄を日常生活で活用できるように指導する。

エ その他

- ・ より円滑な授業展開のため、書画カメラを活用する。必要に応じてデジタル資料等を使用する。
- ・ 基礎技能の習得において、自分自身の作業進度や難易度に合った技能の習得ができるようにする。
- ・ 授業評価アンケートの「先生の説明は分かりやすいですか。」という設問に対する回答について、「あてはまる」は３３％、「ややあてはまる」は０％であり、合計は３３％であった。「あまりあてはまらない」は６７％、「あてはまらない」は１７％であり、全員が「わかる」「できる」授業になるよう、めあてを明確に提示し、実習にも安全に取り組めるようにしていく。また、こまめに評価をフィードバックするように工夫していく。

(3) 第3学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

3年生の学習状況について、以下のような特徴が見られる。

- ・ 授業や作業への取り組みは意欲的で、説明を聞きながらメモをきちんと取れる生徒が多い。
- ・ 生活経験の違いから、技術的な事柄や作業に関する技能について身に付いている力に違いがある。
- ・ コンピュータを活用する力は個人差がある。

イ 学力の状況

3年生の技術の学力について、以下のような傾向が見られる。

- ・ 実技を含めて学習には積極的であり、取り組みは前向きである。
- ・ 教科への興味関心はあるけれども、自分の生活と結びつけて考える力に個人差がある。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 実習を通じて自信を付け、意欲的にものごとに取り組む姿勢を伸ばす。
- ・ 実技で習得した事柄を日常生活においても情報収集能力や情報の取捨選択、高いモラルをもって活用できるようにする。
- ・ 生活に必要な基礎的な知識を身に付ける。

イ 指導面（教師の課題）

- ・ 授業評価アンケートの「先生の説明は分かりやすいですか。」という設問に対する回答について、「あてはまる」は70%、「ややあてはまる」は26%であり、合計は96%であった。また、「あまりあてはまらない」は4%、「あてはまらない」は1%と回答した生徒もより授業に楽しく取り組めるように、また、より生活に役立つ内容を充実して学べるようにわかりやすい授業になるよう工夫をする。
- ・ 基礎的な知識の習得について細やかな指導と工夫をする。
- ・ 実技では、教材教具や授業計画を工夫する。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・ 班の活動を取り入れる。
- ・ 学習カードの振り返りを活用する。
- ・ 安全指導時に場面を言語化することを繰り返す。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ 授業開始時に本授業の目標を提示し、流れと注意点を提示する。
- ・ ICT機器を活用することにより、分かりやすい説明を行う。

ウ 家庭学習の定着

- ・ 技術で習得した事柄を日常生活で活用できるように指導する。

エ その他（ICT機器の活用等を含む）

- ・ 教師用PC画面の一斉送信を用いて、分かりやすい説明を行う。
- ・ より円滑な授業展開のため、書画カメラを活用する。
- ・ 基礎技能の習得において、自分自身の作業進度や難易度に合った技能の習得ができるようにする。